



## 評価のポイント

CL-新人.看護実践能力：ケアする力  
[36-新人]「精神疾患」の基本的病態生理

**普段の看護業務の中で精神症状のアセスメントをどのように実践するのか、その方法を考えてみましょう。**

精神状態は、外からは言葉と行動で評価するしかない。そのためOデータだけで決めつけず、患者の考えや気持ちなどを尋ねることが重要である。患者の行動が「おかしい」と気づいたら、「何困っているの？」と尋ね、言葉を引き出す。精神機能の異常をアセスメントするには、看護記録に丁寧にSデータとOデータを残すようにする。また精神は、9つの精神機能別でアセスメントする。すなわち、①外観、②意識、③記憶、④認知機能、⑤感情、⑥意欲、⑦思考、⑧知覚、⑨自我である。言動の了解可能性と蓋然性が、精神の正常と異常をおおまかに区別する目安となる。幻覚と妄想をすぐに“せん妄だ”と決めつけないことも重要である。